

- No. 8 直接自然物や具体物にかかわり、その物の特徴を感じ取ったり量的感覚を言葉にしたりする中で、文字や数量に関心をもつ。
- No. 26 自分たちでルールを作り、継続して遊ぶ。
- No. 44 クラスのみんなと一緒に先生や友だちの話を聞いたり、自分の経験したことや考えたことを話したりする。
- No. 45 自分の経験したことやイメージしたことを絵に描いたり、粘土などさまざまな素材で表現したりする。  
…考える子ども…

## 思い出大型カルタ大会

互いのよさを認め合いながら、自分たちで作ったもので遊びを作り出し、繰り返し楽しむ

2月

### ☆ 視点に関わる背景（1月頃までの状況） ☆

- 2 学期後半頃より降園前等、学級のみんなが集まるちょっとした時間を利用し『〇の文字から始まる言葉集め』や『しりとり』などの言葉遊びを楽しむ時間を繰り返し設ける。
- 3 学期になると「去年、年長さんがやった『大きなカルタ』をしたい!」と、楽しみにしている子が多かった。そこで、昨年の『思い出大型カルタ』（卒園記念）を借りて、クラスみんなでやってみた。「面白い!」「もっとやりたい!」と、何度か繰り返し遊ぶが、これは昨年の年長児が作った宝物であることを知らせる。すると、「自分たちで作ろう。」ということになる。

### ☆ 接続期の状況 ☆

子どもの姿・子ども同士のかかわり	保育者の援助・視点
<p>「㊦きいもたべたら おならがでたよ。」 「うわぁ、面白い!」「いいね〜。」 「㊧さきとうばん楽しかった。うちのおそうじはくさかったけど、えさをたべてくれて嬉しかった、なんてどう?」 「ちょっと長いような…」 「ぼく、リスの森のお山でそり滑り楽しかったから、その絵を描きたいなあ」 「いいんじゃない! 初めに絵を描いてから言葉を考えてもいいよね。」 「いいねえ。」 「こんな絵にしてみたよ。」 「なんかこの 2 枚、似ているから間違いそう。はっきり分かりやすくしたらどう?…色を目立つように塗るとか…」 「どんなお話にするの? 楽しみ〜。」 「こんなのは…」</p>	<p>〇言葉遊びを楽しむ時間を徐々に『カルタ言葉遊び』へ移行し、カルタ言葉のリズムの楽しさに気づいていけるよう、指導を工夫していく。</p> <p>〇クラスのみんなで 2 年間の幼稚園生活で楽しかったことを話し合いながら、自分でどんな場面をカルタにしたいか、様々な思いやイメージを膨らませる過程を大事に見守っていく。</p> <p>〇カルタ言葉からではなく、絵札から作りたい子もいることを想定し、絵札の台紙も用意していく。</p> <p>〇子どもたちのカルタ言葉や絵札を作っていく過程を、関心をもって見守る。互いにアイディアを出し合ったり、よさを認め合っている姿に共感したり、感心したりする。</p> <p>〇子どもたちと相談しながら、「20 枚出来上がったなら第 1 回カルタ大会」を開催することとする。</p> <p>〇様々な仲間関係を考慮しながらチーム編成をする。</p> <p>〇「思い出大型カルタ大会第 1 回」の前日、翌日何時からするか、学級の子もたちと話し合い、黒板に表示し、見通しをもって過ごせるようにする。</p>
<p>カルタ大会が始まる。 一人ずつチームの代表となってカルタ取りを始める。 2 人同時に取って奪い合いになる。 「ジャンケンしたら!」 「〇君の手が下になってたから、〇君の勝ちだよ!」 「そっか、ちょっとの差だったね。残念!」 「△ちゃん、頑張れ〜!」 「やったあ〜!」「◇ちゃん凄い!」「いっぱい取ってくれてありがとう!」「◇ちゃんのおかげだ!」</p> <p>絵札を重ねて高さ比べ、絵札を並べて長さ比べ、チームのみんなで枚数を数えて発表し合う等、様々な方法を考えて試してみる。「◎チームが多かった。優勝だ!」</p> <p>「俺、いいこと(言葉)思いついた!」 「もっと作ろうと。」</p>	<p>〇チームの仲間で順番を決め、チームから一人ずつ代表が出てカルタ取りをする。</p> <p>〇トラブルが起きた時に子どもたちと話し合い、ルールが共通になっていく過程を大事に見守っていく。</p> <p>〇チームの仲間で互いに応援したり、頑張りを認め合ったりしている姿を感心しながら見守る。</p> <p>〇絵札がなかなか取れない子には、タイミングを見ながらその子が作った絵札を読み上げ、取れた喜びを味わえるようにする等、工夫をしていく。</p> <p>〇全ての絵札が取り終わったら、どのように枚数を比べるか、アイディアを引き出していく。</p> <p>〇「第 1 回はこれで終了! 第 2 回はいつにする? もっと札があるともっと取れて楽しいね。」と、まだ作っていない子の動機づけになるよう、また、次回が楽しみになるよう声をかけていく。</p>

### ☆ 接続期の指導場面における配慮事項 ☆

この時期、殆どの子が数量や図形、文字により関心を示している。さらに遊びに取り入れていくことでますます遊びや生活が楽しく便利になることを学んでいる。そこで保育者は、クラスみんなが共通の目的に向かい、一人一人が意欲的に取り組み、達成感や満足感を味わえるような活動を子どもたちとどう創り出し支えていくか。今までの園生活で培ってきた力を発揮し合い、互いのよさを認め合いながら自分たちで主体的に遊びを進めていこうとする状況づくりをしていくことが重要となる。